



そよ風

- 1～3 夏祭り
- 4 夕涼み会・救急対応訓練
- 5 アフタヌーンコンサート
- 6 国際知的障害学術協会世界会議
- 7 岩手県立遠野病院勤務報告
- 8 院内研修・人事異動

20 回目の夏祭り

夏祭り実行委員長 第 1 病棟指導員 佐藤 紀子

センターも 20 年を迎えた夏祭り。とは言っても私自身は 10 年以上前にどんな夏祭りを行っていたのか昔の夏祭りを知らないなので、比べることはできない。昔は「ステージで仮装コンテストやカラオケ大会を行っていた」、「花火は職員が花火師として汗水流して行っていた」、などたくさんのエピソードを聞く。利用者の方々やご家族の方々には 20 回の夏祭りを体験しているので、一番厳しい目を向けているかもしれない。

今年も少しでも楽しんでもらえればと、工夫してみたことがいくつかある。

大きなイベントが行われていると一目でわかる手作りのステージを設置してのアトラクション。バルーンアートでは、作る体験ができるバルーンアート教室を行った。パンパンと割れてしまいがちながらも、再度挑戦して作り上げていた。祭りらしくリズムに乗って楽しめる企画として“よさこい”を呼び、みんな鳴子をリズムカルに鳴らしていた。西日が射し込む“サンセットステージ”ではあったが、多くの方々が集まっていた。

ご当地物が流行る中、東大和は何もないのかと悩んだ模擬店では、毎年定番の焼きそばとお好み焼きに特別な味をと考え、一風変わった黒焼きそばと、だし粉とゆず粉で楽しめるお好み焼きに。また、たくさんのボランティアによる模擬店での呼び込みも華を添えてくれた。

そして昨年節電対策で縮小されたため 2 年ぶりとなる花火。花火打ち上げ場所を少し変えて、毎年桜の木で見えないと言われる花火を看護学校横の駐車場側の絶好のビューポイントから観覧して頂いた。流行りの音楽花火で中身も盛大に。本当に豪華な花火で締めくくられた夏祭りであった。

さて、今年の夏祭りご満足頂けたでしょうか。何か一つでもこの夏の思い出ができたことを願います。

こころ温まった「夏祭り」

薬剤検査科長 田中 達夫



当センターの大きなイベントのひとつである「夏祭り」に初めて参加しましたが、打ち上げ花火まである本格的なお祭りに驚きました。4 時を過ぎても真夏の日射しがジリジリと照りつける中、人々が集まり始め、5 時過ぎには利用者の方やご家族、近隣の方々、お子さん達でたいへんな賑わいを見せていました。

利用者さんにご家族が参加しバルーンアートでいろいろなものを作ったり、盆踊りの輪に入って踊ったり、ピエロのパフォーマンスショーを楽しんだり、どの会場を覗いても利用者さんにご家族の楽しんでいる笑顔がとても印象的でした。模擬店も本格的で、「お好み焼き」、「焼きそば」など、とても美味しく好評でした。このお祭りの準備には大勢のスタッフやボランティアの協力と大変な努力があって実現したもので、十分、利用者さんやご家族の方々も夏祭りを楽しんでいただけのものと感じました。人と人とのふれあいを通し、みんなが少しでも幸せを感じられるイベント。そんなこころの温かさを感じる「夏祭り」でした。クライマックスの花火も夜空に何発も花開き、思い出深い「夏祭り」になりました。



夏祭りを終えて

第 2 病棟指導員 荒瀬 愛

私は入職して 2 年目の職員です。今年は夏祭り実行委員として夏祭りを迎えることとなりました。去年は、夏祭り当日の勤務が夜勤入りであったため、ほとんど夏祭りの様子を知ることができませんでした。そのため夏祭り前日まで、楽しみな気持ちと、不安な気持ちが入り混じっていました。

しかし前日、本格的に準備を始めると不安な気持ちは消えました。なぜならば、先輩職員の働く姿を見て“みんなで”つくる夏祭りだということが分かったからです。頼れる先輩、同僚の存在を感じることができました。また、「病棟のみんなは楽しんでくれるかな」と考えながら作業を進めることで、楽しみな気持ちの方が上回っていました。

当日は利用者さんのたくさんの笑顔が見られたことが、何より嬉しかったです。また親御さんからの「ご苦労様」「楽しかった」の一言が心に染みしました。私自身も他病棟の利用者さんや職員と接することができる場となり、楽しむことができました。

笑顔で参加してくださった利用者さんにご家族、そして夏祭り実行委員の職員、当日一生懸命動いてくれた病棟職員、みんなでつくれた夏祭りで 2 年目の夏は少し成長させて頂けたように思います。ありがとうございました。



夏 祭 り

第 3 病棟保育士 三牧 梢



入職してから初めてセンターでの大行事「夏祭り」に参加させて頂きました。はりきって看板作りをするなど、夏祭りの前から楽しみにしている利用者さん。

夏祭り当日は、浴衣や甚平を着て、ウキウキ、ワクワクしている利用者さんの姿に、私もウキウキ、ワクワクしていました。

ご家族の方が来られた時の、声を出し、満面の笑みで、身体を揺らしながらご家族のもとへ行く利用者さんの姿は、微笑ましく感じました。日々の関わりの中でもたくさんの笑顔を見ますが、あの時ほどの笑顔は特別ですね！楽しみにしていた夏祭りを、大好きなご家族と過ごせる特別な時間だからこそその笑顔なのかなと思いました。

あの時の特別な笑顔を引き出せるご家族に、ちょっと嫉妬してしまいました。それに負けないくらいの笑顔が見られるような関わりが出来るように、頑張っていこう！と新たな目標が出来ました！

楽しい夏祭り

第 4 病棟看護師 佐藤 かおり

4 月に入職して初めての大きな行事が今回の夏祭りでした。当日を迎えるまで、どのような行事なのか想像ができなかったもので、期待と不安でいっぱいでした。

当日、夏祭りが始まる前には、みんなで浴衣を着て気持ちを高め、日焼け止め、虫よけスプレーをして準備万端整えました。そして時間になり、夏祭り会場へ...

夏祭りの会場は、屋台が並び、ゲームやイベントが満載で、そこにいるだけでウキウキしてくるような雰囲気でした。どの利用者さんも皆笑顔で、チケットを握りしめてお目当ての屋台に並んでいました。当日の天気は、夕方でもとても暑く汗だくになりましたが、歩いているうちにフッと涼しく感じる瞬間があって、頭上を見上げるとなんとミストシャワー！ありがたい演出にしばらく利用者さんと涼ませていただきました。

夏祭りの最後は、花火大会でした。病棟の目の前から上がる花火は迫力満点で、ちょっとびっくりしている利用者さんがいたのも印象的でした。利用者さんと一緒に夏祭りに参加して、私自身も楽しませていただきました。



北 海 道

バイキング

(栄養科)



夕涼み会

第 1 病棟保育士 豊川 尚平



まだまだ猛暑が続く 8 月 31 日(金)に、1 棟では夕涼み会を行いました。昨年同様今年も花火を準備し、夕食をいつもよりも早く食べてテラスへ。利用者さんとそのご家族と職員で花火を楽しみました。手持ち花火、噴出花火、打ち上げ花火と種類は様々。皆で光と音を感じ、8 月最後の日を過ごしました。「やりたい。」と笑顔で手持ち花火をしていた利用者さん、花火の光や音に驚いていた利用者さん、反応も様々でした。居室で過ごされている利用者さん達には居室の窓越しに噴出花火を楽しんでいただきました。花火の光をよく見るように居室の照明を消し、音をよく聞くことができるように窓を少し開け、そしていざ花火が噴き上がるとそちらの方を見ていらっしゃいました。

今回の活動を通して、利用者さんの日常が楽しくなるような活動をこれからも実施していきたいと改めて感じました。参加していただいたご家族の皆様、ありがとうございました。

送迎バス乗務員と職員による救急対応訓練

通所係指導員 松重 泰晴

看護師 今井 永子

去る 8 月 8 日(水)、送迎バス車内で利用者の方に急変があったことを想定した救急対応訓練を、実際の車内の寸法を通所内に再現し、職員とバス乗務員とで行いました。

看護師より基本的な救急時の対応と、バスに常備している医療物品の名称と使用方法を確認しました。実際に人形を使い心肺蘇生法の演習を行いました。

次に、職員とバス乗務員で、日々の送迎時と同じ環境で、乗務員・添乗職員・利用者(人形)・救急隊員・センター職員の役を設定し、緊急時のシミュレーションを行いました。

毎日添乗している職員も、車内空間に限りがある事や、もし、複数利用者さんがいたらなど、感想や意見を交換する良い機会となりました。参加した乗務員の方からも、「訓練とはいえ、状況を再現して、心肺停止時の応急処置や 119 番の電話など、ためになる時間であった。」との感想も届いています。今後も万一の事態に備え、連携を密に図り迅速な行動が取れるよう努めてまいります。



第2回アフタヌーンコンサート

QOL 向上プロジェクト担当主査 指導員 八代 史章

8月10日(金)2時20分からエントランスホールに於いて、アフタヌーンコンサートを行いました。歌とピアノを演奏して下さった方は、川村昌代さん。

川村さんは現在小学校の教諭をされていて、幼少の頃からピアノを習い始め、大学時代は、アカペラグループ“CHOCOLETZ”のメンバーとしてライブ活動等を行ってきて、今回は初めてのソロ演奏だったそうです。

演奏した曲目は、以下の通りです。

1. 崖の上のポニョ
2. さんぽ
3. ジブリメドレー
4. 彼こそは海賊
5. ハナミズキ
6. マル・マル・モリ・モリ



利用者の方々は普段から聴いている曲が多く、身体を揺らしたり、手を叩いたりと楽しんでいる様子が見られました。最後の曲では、利用者の方々も楽器を持って一緒に演奏し、アンコールがかかるほどに盛り上がりました。外来の患者さんにも待ち時間や診療後にコンサートを観て頂きました。

今後も2～3カ月に一度の割合で、アフタヌーンコンサートを開催する予定です。



第 14 回国際知的障害学術協会世界会議に参加して

医局 曾根 翠

国際知的障害学術協会世界会議は 4 年に 1 度開かれます。今回は 7 月 9 日(月)から 14 日(土)までカナダ東海岸のハリファックスで開催されました。ハリファックスはカナダの大西洋沿岸にある港町で、函館の姉妹都市です。会議期間中は毎日快晴で、最高気温は 30 度を超す暑さでした。会議のメインテーマは「可能性の世界」で、知的障害を持つ人たちの生活、健康問題、権利擁護、老化、問題行動、家族支援、重度重複障害などのテーマについて多数のシンポジウムやポスター発表がありました。

日本からも 30 名以上の参加者があり、優秀ポスター賞 3 名の内の 1 名は日本から発表されたものでした。私は、昨年秋に京都で開催された第 1 回アジア大洋州重症心身障害円卓会議の結果を受けて設けられた「日本の重度重複障害児・者」というテーマのシンポジウムで、「日本の重症心身障害児・者の居住状況」「福祉施設・医療機関間での医療情報の共有」の 2 演題を発表しました。せっかく世界大会に作ってもらったシンポジウムだったのに参加者のほとんどが日本人だったのは少し残念でした。けれども一歩前進には違いないと思います。

重度重複障害については、他にもたくさんの発表が日本から行われました。演題の傾向としては、日本からは健康に関する演題がほとんどであったのに対して、外国からはコミュニケーションや教育、終末ケアに関する演題がほとんどでした。新しいテーマとしては問題行動が取り上げられていました。

学会終了後、京都から参加した先生の紹介でグループホームを見学しました。本人の能力に応じて職員が援助していましたが、彼らは必ずしも専門職ではなく、私たちが案内してくれた人も大学生でした。彼は住み込みで食事や掃除、スケジュール管理をしていました。職員も利用者さんも気さくで、生活を楽しんでいるように見えました。



町の中心部から海を望む



東部療育センター岩崎先生のポスター前で



学会後に訪問したグループホームのダイニングルーム

■ 岩手県立遠野病院勤務および岩手県沿岸部訪問の報告 ■

副院長 鈴木文晴

医局 江添隆範

岩手県は以前から慢性的な医師不足に悩んでいました。また今回の地震と津波で複数の県立病院に大きな被害が発生し、職員の退職も出るなど、県立病院の運営に苦慮しています。今回、診療支援の小児科医師を求めるといふ岩手県の要請に応募して、私ども 2 名が岩手県立遠野病院小児科に 6 日間ずつ勤務しました。

遠野市は周囲を山に囲まれた盆地にあります。伝承民話を柳田國男が整理出版した有名な遠野物語の地です。訪問して、自然と人とが密な関係にあり、自然を大切に、全てを神として敬う神道の発想が納得できました。遠野市は以前は農業や林業で栄えましたが、最近若い人が仕事を求めて町を出てしまい、高齢化が進んでいます。町の人口は 3 万人、年間出生は 200 人ほどです。

遠野市にある一般病院は、県立遠野病院だけです(病床数 199)。小児科は常勤医師 1 名のみ、他に小児科医院もないので、常勤ドクターは休みが全く取れない状態です。今回経験した診療内容は、夏かぜなどの感染症や健康診査、予防接種などで、重症の患者さんは来ませんでした。しかし冬場はインフルエンザやインフルエンザワクチン接種などで、忙しいそうです。

診療の合間に、市役所の方が案内して下さって、市の子育て支援制度や病児保育室の案内、また沿岸部の津波被害状況の見学などをしました。遠野市から峠を越すと沿岸部に出来るため、沿岸部支援の根拠地に遠野市はなっていて、市役所に支援部門も設置されています。

沿岸部の大槌町を見学しました。町の中心部では、写真のように建物が全て流されてしまい、コンクリートの基礎部分だけが残っています。そこに雑草が茂り、もの悲しい情景でした。津波から 1 年以上たっても、手つかずのところも少なからずありました。亡くなられた方々のご冥福を祈り、また 1 日も早い復興を祈り、見学を終えました。

見学して、自分たちがいかに恵まれた状況にあるかがよくわかりました。これからもできる限りの支援をしたいと考えております。



丘の上から見た大槌町中心部、かつては建物が多数あったが、今では何もなくなっています。



コンクリートの基礎は残っていますが、建物は流されてしまいました。のび放題の雑草ばかりが目につきます。

7・8・9月の院内研修

基礎コースⅠ	○倫理安全管理
基礎コースⅡ	○摂食・嚥下障害ケア（第1回） ○呼吸ケア（第1回）
基礎コースⅢ	○安全管理
一般コース	○プリセプター ○看護診断 ○療育研究（第3回）
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア（第2回） ○呼吸ケア（第2回）

10・11・12月の院内研修予定

基礎コースⅠ	○呼吸ケア
基礎コースⅡ	○安全管理 ○看護（療育）記録（第1回）
基礎コースⅢ	○摂食・嚥下障害ケア ○呼吸ケア ○看護（療育）記録（第1回）
一般コース	○療育研究（第4回）（第5回）
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア（第3回） ○呼吸ケア（第3回）（第4回）

一日看護体験実施

7月30日（月）・31日（火）3名 高校生

復職支援研修

11月26日（月）～29日（木）4日間

誕生日食（栄養科）



編集後記

蝉の声がいつの間にか鈴虫の音に変わり、秋だなと実感します。しかし、今年の夏も暑かったですね！今回のそよ風も、皆さんの素敵な笑顔がいっぱいです。皆さんの熱い夏の思い出を是非楽しんで下さい。(M.N)

今年の夏祭りも天候に恵まれ、大変な盛り上がりで、最後の花火も大迫力でした。暑い日が続いていますが、夏バテに気をつけて夏を乗り切りましょう。(M.M)

今回の「そよ風」には、新キャラの「こがらし君」が登場♪「そよ風君」に引き続き、とても可愛くて気になっちゃいますね!! 皆様も、色々な楽しみ方で「そよ風」を満喫して頂けると嬉しいです。(S.K)

そよ風第 70 号

編集 院内報そよ風編集委員会
 発行日 平成 24 年 10 月 15 日
 発行 東京都立東大和療育センター
 東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10
 ☎ 042-567-0222
 印刷 有限会社 はじめ印刷
 ☎ 042-560-3031